

国・都・区の重点的な取組

- ◆GIGAスクール構想
- ◆令和の日本型学校教育(中教審)
- ◆グローバル人材の育成

児童の実態

- 一人1台タブレット端末(iPad)
- 校内や各家庭でオンライン接続
- 活用する能力には個人差がある

学校教育目標

「予測困難な時代」をたくましく生きる日本人として、持続可能な社会の実現に向けて多様性を理解・尊重し、自ら課題を解決する力や豊かな人間性、社会性の基礎を培う。

- かしこい子
- やさしい子
- げんきな子

社会的背景

- ◆Society5.0社会(IoTとAIの社会)
- ◆予測困難な社会情勢(新型コロナウイルス感染対策)
- ◆少子高齢化と人口減少(持続可能な社会)

教師の願い

- 児童の「学び」を止めたくない
- オンラインでの指導方法を工夫したい
- 様々なアプリの効果的な活用法について探究し、授業に生かしたい

研究主題

令和を生きる子供たちの学びの実現
～『個別最適な学び』、『協働的な学び』を通して～

研究仮説

「個別最適な学び」「協働的な学び」を授業改善の視点に当て、ICTの活用法やプログラミング教育を充実させた授業を展開することで、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる力を培うことができるだろう。

目指す児童像

「情報技術を活用して、多様な人と協働し、新たな価値を創造する児童」

各分科会ごとの目指す児童像

低学年 : ICTを活用して、友達と関わり、意欲的に学び合おうとする児童
中学年 : 必要な情報を収集し、共有することで、新たな考え方を見出そうとする児童
高学年 : 情報技術を効果的に活用し、多様な人と学び合いながら、課題を解決しようとする児童
神明学級: ICTに親しみ、友達と楽しく関わり合いながら、課題と向き合おうとする児童

研究のねらい

空間的・時間的制約を超えて多様な人と協働し、新たな価値を創造する児童を育成するために、ICTを活用し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「ICTの効果的な活用」に重点を置いた指導法について授業実践を通して考察する。

個別最適な学び

「指導の個別化」

児童の特性や学習進度に応じ、指導法、教材等の柔軟な提供・設定を行う。

「学習の個性化」

一人一人に応じた学習課題や学習活動に取り組む機会を提供する。

協働的な学び

・児童と教師、児童同士、あるいは多様な他者と考え方を組み合わせたり、共有したりすることで、よりよい学びを生み出していく。

・多様な考えが集うことによって生まれる価値を体験していく。

ICTの効果的な活用

「学習用アプリの活用」

「コラボノート®EX」「SKYMENU Cloud」などのアプリケーションを活用し、教員間で共有することで、授業の充実を図る。

「情報活用能力指導計画」によるICTスキルの獲得

1年生から6年生まで(特別支援学級を含む)段階的に身に付けさせたいICTスキルを示すことで、6年間を通じた指導を目指す。

研究の視点